

人工股関節全置換術に対して、神経ブロックと全身麻酔で手術を受けられた患者さんまたはご家族の方へ (臨床研究に対するご協力のお願い)

獨協医科大学埼玉医療センター麻酔科では、上記の手術を受けられた方の診療情報（カルテの情報）を使用して臨床研究を実施いたしております。本研究に該当する可能性のある方のご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また、ご協力いただけない場合であっても今後の治療に不利益を受けることはありません。

本研究への協力を望まれない患者さんおよび本研究の詳しい内容（実施計画書・関連資料等）について閲覧になりたい方は、下記の【問い合わせ先】までご連絡をお願いします。

【研究課題名】

人工股関節全置換術（前外側アプローチ）に対して、持続単径上腸骨筋膜下ブロックとPENGブロックで管理した症例の痛み評価（後ろ向き観察研究）

【研究の背景と目的】

近年、人工股関節全置換術において、体の前外側から手術を行う方法が増えてきています。元々あった体の後ろ側から手術を行う方法と比較して、比較的体の負担も小さく、傷口も違う場所にできるため痛みを感じる神経が違います。ヨーロッパ区域麻酔学会では、この手術の痛み止めの方法の一つとして、腸骨筋膜下ブロックという神経ブロックが推奨されています。また最近になり、股関節の神経ブロックとしてPericapsular Nerve Group Block (PENG ブロック) が報告されました。この神経ブロックは、術後に神経ブロックの副作用としての足が動きづらくなる作用が起こりにくく、かつ痛み止めの効果においても腸骨筋膜下ブロックと比較して大きな差がないと考えられています。しかしながら現在のところ、人工股関節全置換術に対する痛み止めの方法としてどのような痛み止めの方法を組み合わせるか、どのような神経ブロックが良いかなど、明確な方法は確立していません。

そこで、当院では体の前外側から手術を行う人工股関節全置換術に対して、持続単径上腸骨筋膜下ブロックとPENGブロックで痛み止めを行った患者さんのカルテを調べて、安静時の痛みを調査することで、持続単径上腸骨筋膜下ブロックとPENGブロックでの痛み止めの効果を検証することを目的として、この研究を行います。

【対象となる方】

形成不全性股関節症、原発性股関節症、大腿骨頸部骨折、外傷性股関節症のために、2022年11月15日から2024年4月30日の間に、人工股関節全置換術の手術を受けた方で、持続単径上腸骨筋膜下ブロックとPENGブロックを行った方

【使用する検体・診療情報】

使用する診療情報は以下のとおりです。

診断名、年齢、生年月日、性別、身長体重、痛み評価スケール（手術直後、手術2時間後、6時間後、12時間後、24時間後、48時間後）

なお、収集したデータは研究責任者のもと適切に保管・管理いたします。

【研究期間と参加予定人数】

この研究は当院臨床研究倫理審査委員会承認後、病院長（2024年3月29日）の許可日から2025年5月31日まで実施され、40名の患者さんが対象となっています。

【個人情報の保護】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを特定出来る個人情報は削除し、収集されたデータは、個人が特定できないよう通し番号などで匿名化されたのち解析を行います。

また、使用した検体やカルテ情報を廃棄する際も個人情報を削除して廃棄いたします。

【結果の公表】

この研究の研究成果は臨床麻酔雑誌へ投稿される予定ですが、その際も患者さんを特定できる個人情報は公表いたしません。

【研究責任者】

獨協医科大学埼玉医療センター 麻酔科 奥田 泰久（教授）

【問い合わせ先】

獨協医科大学埼玉医療センター 麻酔科 担当者：土井 一輝（助教）

埼玉県越谷市南越谷2-1-50 電話番号：048-965-4948（医局直通）

月曜日から金曜日 9時から17時まで

以上